

## 【第43回中国ミニバスケットボール大会 出場報告書】

東部 Jr.ミニバスケットボールスポーツ少年団

コーチ：山村 岳大

東部 Jr.ミニバスケットボールスポーツ少年団（以下 東部 Jr.）です。  
私たちはこの度、岡山県で3/9と3/10に開催された本大会に山口県代表として出場させていただきました。東部 Jr.としては創部10年目の初の参加となります。

2月末から下関市ではインフルエンザがまた流行しており、中国大会当日も体調不良や病み上がりが数人いてどうなることかと思いましたが、なんとか無事参加することができました。

まず初めに、本大会が始まるまでに準備をして下さった大会関係者の方々の熱意や大会を盛り上げようとして下さる姿、そして当日のおもてなしや完璧な大会準備に感心し驚かされっぱなしでした！

開会式が始まり、全出場チームが整列してまず感じたのは、どこのチームも体が大きい！ということです。中学生チームが来ているのかと思うほどでした。予想はしていましたが、私たち東部 Jr.は出場チームの中で唯一160 cm以上のプレイヤーがいない最小チームだと認識しました。

私たちの一日目は『川津ミニバス（島根県）』さんと『邑久ミニバス（岡山県）』さんとのリーグ戦を行いました。

第一試合目は、初戦で邑久ミニバスさんに勝利した川津ミニバス（島根県）さんと対戦しました。パンフレットでも確認しましたがこの川津ミニバスさん、今大会平均身長 No.1 チームでした。170 cm近いプレイヤーが何人いるのかというくらい的大型チームで、本当に中学生と試合をしているようでした。

試合の詳細としては、ゴール下やリバウンドはやはりかないませんでした。この一年の大きいチームとの試合経験を活かし、全員ディフェンスでルーズボールになんとか食らいつき、ミドルシュート主体で得点を稼ぎ、終始一進一退の試合運びで同点で4Qが終了しました。大きいチームを相手にするとただでさえ体力を消耗しますが、さらに2度の延長戦までもつれ子供たちもとても疲れていましたが、なんとか勝利することが出来ました！

二戦目（邑久ミニバス戦）は一試合空けてのはずでしたが、コートが第一試合とは別のため30分後には始まってしまい、正直子供たちの体力回復が望めませんでした。

その状態ながらもなんとか自分達のバスケットをしながら残り45秒くらいまで5点差以内でくらいついていましたが、残念ながら敗戦となりました。

二日目の第一試合は『岩倉ミニバス（鳥取県）』さんです。このチームは鳥取県大会の優勝チームで、全国大会より中国大会を選んでこの大会に参加したそうです。

やはりこのチームも大きいプレイヤーが3人いて、リバウンドやゴール下のプレイには苦労しましたが、ディフェンスを頑張ってから速攻などが決まり勝利をおさめる事ができました。

二戦目も『上小鴨ミニバス』さんという鳥取県のチームと対戦させていただき、一時は15点差まで広げましたが、流れを奪われ一点差で敗戦してしまいました。

二日間に渡り四試合させて頂き、二勝二敗という結果でしたが、頑張って勝てた試合や勝てる試合を落としてしまったりと、最終的には全試合タフな内容となりました。

結果的に見た事・感じた事は、全チームに大差はなく、その時のコンディションや調子、一つの流れで内容や試合結果が入れ替わるレベルの高い大会だったと思います。

子供たちも最後は涙を流しておりましたが、中学バスケでも今回の経験を活かし、更にレベルアップをして個々に活躍してくれる事を確信しております。

大会も関係者すべての方々のおかげでトラブルも無く、大盛況で終えることができました。本当に感謝しかありません。有難うございました。

子供たちが目標とした山口県一位で全国大会出場は叶わなかったですが、中国大会で岡山県に来て本当に良かったと思わせて頂いた、素晴らしい大会でした！